

問 かつの未来の創り手育成事業の「鹿角市若者議会」の実施に向けた今後の計画は。

答 検討委員会を立ち上げ、方向性や活動内容、委員の役割の共通認識を図り先進事例の調査・研究を行い、課題解決のため議論を深めていく。



録画配信はこちらから



鹿角地域の山林火災の危険について

問 岩手県大槌町では大規模山林火災が発生した。本市でも発生する可能性があると考え、本市の対策を伺う。

答 大規模林野火災への発展は常に認識している。本年1月に大船渡市へ消防団幹部、消防長及び職員を研修派遣した。研修後の市消防団による春の火災想定訓練を見直し、実践的な遠距離送水訓練を実施した。また、山火事防止宣伝パ

レードを実施し、市民に山火事防止を呼びかけている。

問 今年度から医師修学資金貸与制度を利用した医師がかづの厚生病院に就業した。今後も本市での勤務は可能か伺う。

答 今回勤務を開始された医師は岩手医科大学の消化器内科医局に所属している。この制度では、修学資金の返還免除規定があり、大学側にも理解を得ている。この医師のキャリアを鑑みた場合、大学での研修等で一時的に中断もありうるが、通算6年の義務年限までは勤務いただけると思われる。

質問した項目

- 鹿角地域の山林火災の危険について
- かつの未来の創り手育成事業について
- 医師確保対策事業について
- 農業振興ビジョンについて
- 最低賃金の引き上げの影響について
- ほか

成田 哲男 議員 (誠心会)

質問時間 30分

問 人口減少社会における本市の外国人労働者受け入れのための日本語教育の体制整備は。

答 日本語教育の所管を産業部へと移管し、よりきめ細やかな指導体制を整え、内容の充実を図っている。



録画配信はこちらから

質問した項目

- 人口減少社会における外国人材の戦略的受け入れと、自治体としてのガバナンスについて
- 「子ども・子育て支援金」による住民負担増の問題と「子ども政策の適正化」について



人口減少社会における外国人材の戦略的受け入れと、自治体としてのガバナンスについて

問 本市における外国人住民の現状把握と課題について伺う。

答 昨年12月末現在235人で増加傾向にあり、受入段階における住宅整備の支援、受入後の地域社会定着に向けた支援も重要課題である。

「子ども・子育て支援金」による住民負担増の問題と「子ども政策の適正化」について

問 令和8年4月より子ども・子育て支援金の徴収が始まり、保険料に上乗せする負担制度は今後加入者全体から徴収され、段階的に引き上げられる。

答 社会保険の仕組みに便乗したステルス増税について本市として物価高騰の中、住民の負担を軽減するため、関係機関への要望等地方からは正を働きかける考えはあるか。

問 国の少子化対策の抜本的な拡充や社会全体で負担を分かち合う制度の主旨そのものは、持続的な発展と安定を図る上で重要な課題と認識している。したがって国等に対し制度の見直し等を要望する考えはない。